



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

詩篇130編の詩人は、この「見張りが朝を待つにもまして」(詩篇130:6)の言葉を二度繰り返す。敵に苛まれ、暗闇の中でひとり、恐怖と対峙する兵士。彼はその長く、終わりの見えない漆黒の空に、微かに曙の光のさすころを待ち続ける。私たちの魂の飢え乾き、そしてそこからこの「見張りが朝を待つにもまして」という言葉こそふさわしい。七つの悔い改めの詩の一つである、この詩篇には「深き淵より」という表題がつけられる。まさに罪という神から最も遠い深淵で、人はもがき苦しめ、神を呼ぶ。「主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください」(詩篇130:2)と。そして、彼は叫ぶのだ。「わたしは主に望みをおき、わたしの魂は望みをおき、言葉を待ち望みます」(詩篇130:5)。人は、この光ささない「深い淵の底」(詩篇130:1)を見なければ、決して神を見出すことはできない。「信仰は神の恵みの満ちあふれてい

る所ではなく、神から棄てられたところで、なお神を呼ぶことなのである。」(関根正雄著「詩編注解」より) 詩人が見たものは、どんな深淵であったのか、それはもう想像するほかない。しかし、それをあえて大胆に想像するならば、この「見張り」という言葉に行き着くのだ。夜を徹して、襲いたものたちであった。社会の底辺で、誰からも知られることなく、人が休んでいない時に働く彼らの姿は、まさにこの夜明けを待ち望む者の姿に他ならない。しかし、その彼らに、神の光が突然介入してくる。それはすべての打ちひしがれ、主を待ち望む者たちへの救いのしるしだったのだ。

瞑想

わたしの魂は主を待ち望みます
見張りが朝を待つにもまして。

詩篇130:6

主幹牧師 榎本 恵

来る見えない敵を前に緊張し、見張り続ける彼らは、誰よりも懸命に夜明けを待ち続ける。それは、クリスマス夜の夜、「夜通し羊の番をしていた」(ルカ2:8)羊飼いたちのことを思い起こす。人々の寝静まった夜、城壁の外で、羊の番をする羊飼いたち。彼らもまた、この夜明けを待ち続けてい

より) この詩人もまた、深き淵の底を知り、その中から叫ぶように祈り、そして神を見出した。小さな部屋の中で、動けぬ体をもてあまし、彼は何を思ったのだろう。眠れぬ夜の長さを、何も変わらぬ現実の繰り返しの中で、砂を噛むような思いを彼は痛いほど知るものだっただろう。けれども彼は、もう一つ知っていた。わたしは主を待ち望みます見張りが朝を待つにもまして。」(詩篇130:6)という言葉を。そして彼もまた、あの羊飼いたちのように、真つ暗闇の中で突然の光を受けたのだ。 友よ、私たちはどうだろうか。これから向かっていく新しい年は、果たして光満ち溢れたものになるだろうか。それよりもむしろ、世界はほとんどと暗いほうへと向っているように感じる。私だけではないだろう。けれども私たちは、その暗闇の中でこそ、光り輝く夜明けの明星を見出すことを信じて行こうよ。「天に栄光、地に平和」

第17回愛知アシラムの感想

仲 埜 昭子

不謹慎かもしれませんが、私は小旅行を兼ねたアシラム参加が大好きです。今回の岐阜多治見市在住の姉宅訪問を兼ねて、大阪堺市から初めて愛知アシラムに参加させて頂きました。奉仕者の村瀬俊夫師にお会いしたい思いもありましたし、主題聖句の「主よ 私たちに祈りを教えて



ください」にも心動かされました。10月28(金)〜29日(土)。会場は南山学園研修センターで、参加者16名。ルカ10:38〜19:10を愛聴し、3回の恵みの時が与えられました。私たちのファミリーは男性3名、女性2名で私以外は御夫婦共にクリスチャンで、男性3名はギデオンの協会のメンバーでもありました。アシラムの醍醐味は何ととっても一期一会の出会いと、寝食を共にしてのみことばと祈りの交わりだと私は思います。今回のアシラムでは特に愛聴(神の愛を聴く)と、現臨のキリスト(再臨ではなく)という言葉が心に響きました。3回の説教と奨励もまさにそのような内容で大いに励まされました。帰りにはギデオンの新約聖書を2冊頂き、名古屋駅で50年ぶりに再会しました中学

第21回 北陸富山アシラムに参加して

坂東悦子

健康上の理由で「来年は参加できるだろうか」と心配していましたが、前年参加された方々とも再びお会いできて本当に感謝でした。私にとっては今回は3回目の参加です。少し慣れたせいも、一泊二日の日程はあっという間に過ぎました。私はここ数年、毎日聖書を開く習慣はついていました。ところ

が、最近読んだ本で「家庭の中に祭壇を築く」ということばと、「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのりがあると思うので聖書を調べていますー中略ーいのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」ヨハネ5章39-40節のみことばにより、私はまだ本当の意味で神様との交わりができていなかったと気づかされました。若い時は礼拝に出ていっただけで満足し、ろくに聖書も読まないできたことに今頃気がつき、あわてています。そのため、いつも心の中がセカセカ・ザワザワしているような感じ

時代の友人にプレゼントすることができました。お交わりの中で、友人の娘さんが、会場となった南山学園の卒業生であることがわかり、ふしぎな導きを感じました。翌日の日曜日は姉夫婦と3人で多治見のカトリック修道院のミサにも与かり、ハレルヤ!と主の御名をあげました。神と人の恵みとあわれみを心から感謝致します。(チャペル・こひつじ)

「暗闇に輝くともし火として」ペトロの手紙II 1:19

第37回 札幌アシラムに参加して

藤野 政子

札幌アシラムはこのみことばをいただきたい、一泊二日の会を盛会の内に終えることが



第1日目に示された「神の声を聞く」ということに、これからも専念したいと思えます。又、来年も皆様とお会いできると信じます。そしてアシラムに参加する人が増し加えられますよう祈ります。

(魚津めぐみ キリスト教会)

- ご献金者 敬称略
- 10月分
- 良雄
- つ子
- 美子
- 千歳
- 京子
- 孝子
- 香川
- 正岡
- 中谷
- 鹿屋
- キリスト教会
- 神本
- 鹿見島
- アシラム
- 氏博
- 無菅
- 井沢
- アシラム
- 司代
- 恵子
- 康子
- 光和
- 子
- 静子
- 湯野
- 洋子
- 多子
- ユキ
- 英理
- 朝子
- 俊夫
- 雄二
- 村瀬
- 戸井
- チャーム
- コンサート
- (池田)
- チャイムの会)
- 橋本
- 志津子
- 川口
- 百合子
- 山岡
- 裕子
- 持田
- 常任運営委員会
- 小林
- 茂男
- 小林
- 佳子
- 明石
- シオン
- 崎子
- 北山
- 松野
- かよ
- 勇
- 村
- 上
- 渡辺
- 美寿子
- 萬里子
- 新沼
- アシラム
- 達夫
- 井上
- 美奈
- 美奈
- 福岡
- 聖書教室
- 塚口
- 實枝子
- ちるば
- 銘師
- 記念
- チャペル
- 夕礼拝
- 大坂
- 聖書教室
- 高橋
- 悦子
- 高橋
- 岩夫
- 藤本
- 朋子

熊本地震のための 暖かいお支えに感謝して(2)

熊本アシユラム 竹内一臣

さて、さきほど読んでいただいた聖書の中に10人の重い皮膚病、ハンセン病の人の話が出てきます。緒方先生(日本福音ルーテル合志教会牧師)や私が生活しています合志市には、国立ハンセン病療養所菊池恵楓園があります。そこには飯田なほ子さんという婦人が暮らしておられますが、彼女は結婚4年目、30歳の時、ハンセン病を発症します。幼い子ども3人を夫に託して、恵楓園に入所されます。一番下の子は生後7か月の乳飲み子でしたが、飯田さんが入所してまもなく亡くなります。長男は、12歳の時に、ハンセン病を発症して母親のいる恵楓園に収容されます。彼女は、家族と引き裂かれた60年間の人生をひたすら俳句に詠んで生きて来られました。そして、今月、詠ん

でこられた俳句が一冊の本となり、長男さんの手によって発行されます。一番辛かったのは、自分の存在が身内の縁談の相手側にわかり、その縁談が壊れてしまい、親戚の一人から「死んでくれ」と迫られた時だったそうです。家を崩壊させてしまった罪の意識と生きていることの申し訳なさで常につきまとうた人生だった語られます。ハンセン病が、結核よりはるかに弱い感染力しかないのに、姿顔かたちが醜く変化して死に至る病であったために、偏見と差別の対象となり、イエスが生きられたイスラエルでも、ハンセン病患者は、神様の大きな呪いを親の代から受け継いでいるものであり、神様の恵みの外側にあるもの、神様の罰が呪いがその肉体に集められている者とい

う烙印が押されています。彼等は病気の苦しみに加えて、人として受け入れられない悲しみ、孤独という辛さの中を生きて行かざるを得なかったのです。イスラエルの城壁の外にあるケレドンの谷に隔離され、洞穴を住まいとし、時々、城壁が投げおろされる残飯を食べて、命をつないでいました。彼らが町に入る時は、人々から離れ、「私は、汚れた者です、汚れた者です。」と叫びながら歩くことが義務づけられていたのです。

人と関わることを禁じられていた彼等が、イエス様と出会った時、「私を憐れんで下さい」と、イエス様に向かって、「いや神様に向かって「憐れんで下さい。」と叫び得たことは奇跡であり、深い感動を覚えるのです。そして、イエス様は彼等の訴えをお聞きになり、「さあ、祭司たち所へ行つて、体を見せなさい。」と言われたのです。ハンセン病は当時、宗教的な病気であります

ので、祭司の処へ行つて、病気が癒されたという証明が必要だったので。そして、彼等が祭司の処へ向かう途中に病が癒されていることを知るので。教会では、よく「人生を中断される」という言葉を耳にします。自分の予期しないケガや病気のために入院を余儀なくされた方々の言葉ですが、彼等は、ハンセン病のために、自分の思わない所で、予想だにしない時に、人生を中断させられてしまったのです。

緒方先生の人生も戦争のために中断させられたのです。両眼を奪われ、片方の手を失って、軍隊から家に帰ってこられた後の人生は先の見えない荒れに荒れた人生でした。しかし、神様は神水教会の盲人牧師であった石松先生と出会いを与えられ、神学校への道を開かれたのです。神学校を卒業した時、先生はその時の気持ちをおられます。「卒

業しても、私のような者を招いてくれるような教会はないだろうと思っていました。愛知県豊田市の拳母教会にお招きを戴きました。本当に奇跡を見る思いでした。

赴任した夜、私は会堂でこんな祈りを捧げました。「神様、私のような障害を持つ者が召されてあなたのみわざに参加させて戴きますが、こんな者が地域の人たちに受け入れてもらえるか、考えると不安で、不安でたまりません。どうか助けて下さい。そして私が牧師として任のある間、朝夕の礼拝だけは守らせてください。私の家族だけであつてもいいですから、礼拝はこの場所で捧げさせてください。」

と祈るうちに私の祈りは、叫びへと変わってしまいました。主はその叫びを聞いて下さったのです。聖書に出てきた、10人のハンセン病を患っていた人の祈りを聞かれたように。



この原稿は、主幹牧師が、三浦綾子読書会機関紙に寄せて書いたものです。

わたしは弱い時にこそ強いからです —牧師榎本保郎と作家三浦綾子—

「果たして、男女の間に友情は成立するのか？」のっけから青臭い高校時代のホームルームのようなことを書くことをおゆるしいただきたい。けれども、今回父榎本保郎と三浦綾子さんのことについて書いて欲しいと、編集者から頼まれて真っ先に思いついたのはこの言葉であった。私ももう父が召天した時の年齢を3歳も上回り、人生の後半を歩み始めている。今から40年前、父は52歳で天に召された。私は、その時15歳の高校生。だから、ほんとうは三浦ご夫妻と両親のリアルな交流をほとんど知らないのだ。炬燵の中で寝転び、夜更けまで話し込んでいたことも、講演会の終わった後、お腹を空かせた綾子さんに、「私の家に来ませんか」と誘い、突然の訪問に母が慌てて作った味噌汁を喜んでくださったことも、本で読んで初めて知ったのだ。いやそれよりも何よりも、私たちアシュラムセンターの機関紙「アシュラム誌」に綾子さんが連載をし、それがのちに、エッセイ集「泉への招待」の中にまとめられているのも、最近になって知ったことである。改めて三浦綾子さんと父との交流について調べてみる時、今の自分にはとても真似できない二人の心の交流が、羨ましさを通り越し、嫉ましくさえ思えるほどだ。

『続氷点』が終わった5月10日（1971年）、何人かの方から、電報をいただいた。第1番目に下さったのは榎本保郎先生である。』（「祈りと感謝」）「先生ご夫妻と私たち夫婦は、畳の上に寝転んで話し合った。そう提案せざるを得ないほど、先生は疲れていられたのだ。そのとき先生はおっしゃった。『僕が死んだら、葬式はどうでもええが、三浦先生伝道集会に来てくれませんか』私はぎくりとした。」「（「囁むということ」）「榎本先生が召されて4か月半が経った。近頃、わたしは先生のテープを聴きながら夜を過ごすことが多い。先生の声の高低、アクセント、笑いのひとつひとつに、先生の表情や身ぶりが思い出され、なんともいえない懐かしさに襲われる。」「（「神の先に立つ信仰」）

この他にも、三浦綾子さんは、アシュラム誌に「壺」という題で、父の亡くなった後もしばらく連載を続けてくださっている。この父と綾子さんの特別な関係は、

皆さんもよくご存知のように、「ちいろば先生物語」として世にでることになる。綾子さんは、父の召天一周年記念会と、そして十周年の「ちいろば先生物語」出版記念会で、2度の特別伝道集会の講師として奉仕して下さっている。「僕が死んだら、葬式はどうでもええが、三浦先生伝道集会に来てくれませんか」この2人の約束は、こうして実現することになる。榎本保郎という男性牧師（しかも自分の属する教会ではなく）と三浦綾子という当代一の女流作家の交流は、単に牧師と信徒という関係を越え、ともに神の召しを受け、ともにその命を賭し、ともに、その時代と世界を駆け抜けていった同士だった。「果たして、男女の間に友情は成立するのか？」この二人の間にある友情。それは本当に妬ましく、羨ましい。

ところで、今回、こうして古いアシュラム誌を引っ張り出し、改めて気づいたことがある。それは、そこに書かれているお互いの文章がこだまするように響き合っているのを感じるからだ。ほぼ10年近く続くアシュラム誌の中の、父の巻頭言「瞑想」と綾子さんのコラム「壺」。それが、まるで往復書簡のように思える。

『アシュラム誌11月号（1976年）の巻頭に『三度同じ言葉で祈られた』と題して榎本先生が書かれていられる。わたしは、それを読み乍ら、ふっと幾日前のことを思い出していた。』（「30回祈れと言われて」）「先日主婦の友社の出版部の人々が訪ねて来、話がたまたま三浦綾子の先生の事に及んだ時、彼は『三浦先生のものとはよく読まれるが、その理由はどこにあると思うか』と聞いた。私は直ぐに『それは先生の弱さだと思う』と答えた。私のような者にも、わざわざ長距離電話で『祈ってください』と電話をかけてこられることが度々ある。この事は先生がいかに自分の弱さ、貧しさを知って文筆活動をしておられるかを示すものだと思う。』（1974年10月アシュラム誌「瞑想」）

使徒パウロはその伝道の大変な困難の中で「わたしは弱い時にこそ強いからです」と言う。牧師榎本保郎と作家三浦綾子、それはまさにパウロのように、自らの弱さを知り、しかし同時にそこに働く神の強さの中に生きた者同士であったのではないだろうか。そして、そこで二人は、励まし、慰め、気づき、語った。その二人の間で交わされたこの貴重な往復書簡は、神以外は誰一人介入することのできない二人の「信仰の相聞歌」とも呼べるものだったのではないだろうかと思は思う。なんともうらやましい限りである。



「三浦綾子読書会」にて。森下辰衛師と、恵師との対談。

いよいよ2017年が始まる。この年は、どんな年になるのか、巻頭言にも書いたように、その先行きは、決して明るい未来を指し示すものではないだろう。アシュラム運動も、ただ漫然と去年と同じことを繰り返して行くだけでは、その行く先は目に見えない。預かったタラントを土の中に埋めておいてはならない。1月から、FEB Cでの放送が始まる。また、数々の新しいビジョンも与えられている。どうか、アシュラムの友よ。一年の始まりの「年頭アシュラム」に共に集い、共に祈り、共に語り合おう。「あなたたちの息子や娘は預言し老人は夢を見、若者は幻を見る。」（ヨエル3:1）

（恵）

あとがき

1月のアシュラムなど

6(金)	阪神ミニアシュラム (主恩教会 PM1:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
9(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30) 奉仕者 櫻本恵師	092-607-8251 樋口栄子姉
12(木)	常任運営委員会 (アシュラムセンター)	0748-33-4030 アシュラムセンター
15(日)	ちいしば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会 (PM5:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
17(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
18(水)	カフェちいしば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30) 奉仕者 櫻本恵師	075-643-2476 みんなのカフェちいしば
20(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
24(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター4F AM10:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
24(火)	桜美林リトリートアシュラム (桜美林大学冠冠 PM2:30) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
26(木) ~ 28(土)	第42回 年頭アシュラム (関西セミナーハウス) 奉仕者 櫻本恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

2017年のアシュラム予定
(櫻本保郎牧師召天40周年記念の年です)

第42回 年頭アシュラム

日時 1月26~28日(木~土)
場所 関西セミナーハウス
奉仕 櫻本恵師
申し込み アシュラムセンター 0748-33-4030



ブラジルアシュラム(開催月訂正)

日時 2月26~28日(日~火)

□サンゼルスアシュラム

櫻本保郎牧師を偲ぶ会、コンサート

日時 4月1~4日(土~火)
1日:一日アシュラム、2日:偲ぶ会、3~4日:一泊アシュラム
日本、世界各国からの参加者もお待ちしています。当日は現地集合です。
お問い合わせ アシュラムセンター 0748-33-4030

たびんちゅ牧師と行く 沖縄巡礼の旅・沖縄聖書教室

日時 慰霊の日 6月23日前後

第14回 国際正義・平和アシュラムin神戸

♪沢知恵さんコンサート♪

森下辰衛氏(三浦綾子記念文学館特別研究員)講演

日時 9月25~27日(月~水)

みことば

岡山聖書集会(無教会)
香西 信

「ことばの意味を開く(10)」

私たちが毎日の生活を送っていると、簡単に答えの出ない問いに直面することがよくあります。

例えば、人間関係で全面的に信頼を置いていた人に簡単に裏切られた時、私たちはどうしてなのかと自問自答し、とても苦しくまた悲しい思いになります。あるいは、愛する家族の病気や介護、死の問題で思い悩む時、最善の方法を探し求めてもなかなか答えは見つかりません。また思った通りの学校に入れなかったとか、希望する仕事に就けない。またやりがいを喪失して、生きがいを見出せなくなることもあります。

これらの問いの答えは自分の中から簡単に出てくるものではありません。私みたいな世代は手っ取り早く一つの答えを見つけることができないというジレンマに対する免疫がありません。だから、このような大きな問題、つまり「人生をいかに生きるべきか」という難問に直面すると、怯み、たじろぎ、立ち竦んでしまうわけです。

人間の知恵は、日々の生活の工夫においては力を発揮しますが、その背後にある存在の意味を自覚できるかという点で難しいと思われまます。

私たちが聖書を読むときは、おそらくこのような自分の手には負えない問いに直面したときではないでしょうか。行き詰まって藁にもすがる気持ちで聖書をひもといた経験は私も数え切れないほどあります。そして一つのみ言葉が与えられて本当に救われたことがあります。

このように、私たちが本当に生きる意味を、その確かな意味を与えてくれるのが、聖書すなわち神の知恵です。

神の知恵、神の力の内実が十字架の言葉であると使徒パウロは言っています。次回は「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」(わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか。)というイエスキリストの十字架の言葉。それが神の知恵であるということと共に考えてみたいと思います。



平和兄、お帰りなさい。
(写真右から二人目、修道場住人・隣は妹の知恵ちゃん。)半年のアメリカ研修後、久々の早天祈祷会。るっちゃんの朝ごはん。

たびんちゅ牧師の今日も求道中

FEBCラジオ放送にて
恵師 担当番組、始めます!
2017.1月~3月(水)夜10:14~
AMラジオ1566 KHz インターネットwww.febc.jp.com

